

## フォーモストブルーシール株式会社を訪ねて

兵庫障害者職業能力開発校 杉本 裕之  
ポリテクセンター関西 大野 成義  
(関西職業能力開発促進センター)

今回は、沖縄を代表するアイスクリーム、ブルーシールアイスクリームを製造・販売されている『フォーモストブルーシール株式会社』に取材をお願いしました。那覇から車で30分程度の浦添市に本社があり、アイスクリームの生産工場にはアイスクリームを一時的に保存する大きな冷蔵（マイナス30度以下）倉庫がいくつもあり、アイスクリームを販売するパーラーも隣接しています。アイスクリームの種類もバニラやチョコといった一般的なものだけでなく、シークワサー、紅イモなど沖縄ならではのフレーバーがあり、ゴーヤ味のアイスクリームも開発したということです。

—まず会社のご紹介をお願いします。

創立当初に受け継いだアメリカのフォーモスト社独自のアメリカンオリジナルレシピをベースに沖縄の味が出せるように、新製品開発にも取り組んでおり、製法としては160種類以上の多品種・少量生産を行って、味と品質を厳しくチェックしながら、個性的でバラエティー豊かな製品づくりを実現しています。また、工場長をはじめとする全社員が厳しく、品質管理を行いながらのこだわり製法が、ブルーシールアイスクリームを生み出しています。

—定期的な新規採用は行われているのでしょうか。

ほとんど定期的な採用はないですね。以前からですが、高校や大学を卒業してすぐに入ってきた人は少ないです。定年退職とかあるいは自己都合で辞め

たときの補充ということです。

夏場になってくると短期的なパートが増えます。また、2～3年ぐらいの臨時で働いている人もいますが、正規従業員になるときはこの臨時の人を優先

### 会社概要

- 社名 フォーモストブルーシール株式会社  
代表取締役社長 山口 迪雄
- 所在地 〒901-2610  
沖縄県浦添市牧港5丁目5番6号
- 設立 1963年2月9日
- 資本金 151,890千円
- 事業内容 アイスクリームの生産と販売  
アイスクリーム関連商品の販売  
冷菓と乳製品の販売  
アイスクリームパーラーの経営
- 従業員数 130名



写真1 会社外観

的に採用するようにしています。そのような方法であれば、正規従業員になったときに大体最初から基礎的なものは対応可能なので、教えるほうも教えやすい。工場でもそういうやり方をしています。

——160品種もの製品をつくられて、生産現場ではスムーズな対応がとれるのでしょうか。

慣れるまでに2、3年かかります。結構、機械の癖や手順などが、ものによって変わってくるので、例えば、アイスクリームの中に入れるものによっても機械のスピードなどが変わってくるのです。数値化できないものは、ある程度、勘や経験に頼らざるを得ないというところがいまだにあります。そのため、最初はマン・ツー・マンで1週間ぐらいずっとつきっきりで教えなければだめです。最初は簡単なところから入れていって、「ここはベテランだ」というところまでローテーションという形でその人に応じてやっていきます。

——体系的な人材育成はどのように行っているか教えてくださいいただけますか。

現在、体系というよりも、工場の中では、例えばボイラー、冷凍機、安全衛生管理、危険物および食品衛生安全管理者でしょうか。そのような業界に関連する講習やライセンスがあるのです。そういったものは確実に、だれでも受講できて、それから試験できるようなシステムとなっています。ただ、試験を受けるかどうかは本人に任せています。そしてなかには、講習を受けても試験は「どうせだめだから」と、受験しない人もいます。ただ少なくとも、講習だけは最低、行かせるということをやっています。また、沖縄ポリテクカレッジとアイスクリームを容器に注入するパッケージ装置の共同研究開発を行っており、そのなかで設計・製作および制御法を習得し、メンテナンス技術の向上を行っています。その他の講習などではポリテクセンター沖縄も活用しています。そして今後は、HACCPの中に「従業員の教育訓練」の項目があり、申請をしようということで、準備しているところです。



写真2 取材の様子

——評価のほうですが、人事考課には？

外資系だったせいもあって、賃金体系が日本の企業みたいにきちんと決まっているものがないので、そういった評価はしていません。ただ、ライセンスが必要なものは職能給の形でプラスしています。できるだけライセンスを取れるものは取ろうという形で、本当に、それをやらなければだめだろうということで取り組んでいます。

——ノルマみたいな形で…

試験を受ける前の講習だけは、ノルマみたいに、製造現場の製造・販売員は行かせています。ただ、就業時間中に行かせますので、本人たちも断れないような状況です。そして、ライセンスを取るときに、2回までの費用と賃金までフォローします。その代わりに2回で取らなければ、あとは個人で負担して取ってくださいという形にしています。

——外資系の企業（現在は（株）ポッカコーポレーションの資本）では能力主義というイメージがあって、逆にそういった面で人事評価をしないと賃金を決めることができないような感じがするのですが…

管理職など能力で最初から決められたような面があります。例えば、以前は入社時に自分で賃金交渉したので、入社時期がそれほどかわらなくても時給が異なったりして、1人ひとりの基準が異なるとい

うように、賃金体系がもともとありませんでした。その後、会社と組合が話し合っって賃金の交渉を行ってきました。

——先ほどでてきたHACCPということですが、品質管理ということで、中小企業の製造業がISO9000を取得するというケースが非常に多くなっているわけですが、こちらのほうはどうでしょう。

特に乳業関係の場合、それよりもHACCPが先になっています。現在それを取得しようとして、みんなで一生懸命なのです。

——HACCPというのは具体的にどのようなものしょうか。

これは、食品の生産工程のなかで危害の発生を未然に防ぐというシステムなのです。いままでの製品は、できたものに対しての品質検査だったのですが、できてからでは遅いということで、できる前から危険な要因となるものを取り除いていく生産工程にしようということです。現在は以前に比べて、その承

フォーモストブルーシール (株) HACCP運営組織図

HACCP運営組織図	文書番号	運営組織図
	版番号	1 / 1
	作成年月日	2001年 4月 4日
	改訂年月日	

  

1 HACCP統括チーム	
HACCP統括長	○○○○
—— 営業部	○○○○
—— 事務所	○○○○
—— 製造課	○○○○
—— 資材課	○○○○
—— 商品課	○○○○
—— 品質管理室	○○○○
2 HACCP推進チーム	
HACCP作業統括	○○○○
HACCP作業事務局	○○○○
製造課全般	
仕込み	○○○○
充填	○○○○
品質管理	○○○○
資材課	○○○○
商品課	○○○○
営業部	○○○○
直営店	○○○○

認を受けるためのハードルが結構高くなったように思います。だからもう一度、小さなところから再点検をやり直さないといけないという状況になっています。厚生労働省で認可されるまでは、最初の段階から地元の保健所と意見を交換し、連携してという形でやっています。

——ポリテクセンターやポリテクカレッジなどの職業能力開発施設を活用されているとのことですが、具体的に教えていただけますか。

コンピュータ関係や機械関係のシーケンスとか、そういったものも活用しています。例えばコンピュータですが、初級編というのがありますけれども、

一般衛生管理マニュアル

5 従業者の衛生教育および衛生管理	文書番号	一般衛生 5
	版番号	1 / 3
	作成年月日	2000年11月25日
	改訂年月日	

  

(1) 教育訓練計画
教育目的、教育対象者、教育内容およびスケジュールを明記した教育訓練計画を作成し、実施するとともに、実施状況を記録すること。
① 新人教育計画
新たに採用した従事者に対し、次の内容の教育訓練を行うこと。
1) 会社の衛生管理に関する考え方
2) 従事者の衛生の基本
3) HACCPの基本的内容
② 継続的な教育訓練計画
各工程の製造現場の責任者及び従事者、HACCPの担当者に対し定期的に以下の1)～9)に規定された内容について、再教育を行うこと。そのほかに、日頃から講習会や各種セミナーに積極的に参加させ、知識、技能の向上に努めること
1) 会社の衛生管理に関する考え方、その手法
2) アイスクリーム概論
3) アイスクリームに関する危害及び食中毒
4) 危害の制御について
5) 従事者の衛生の基本
6) HACCPの7原則
7) CCPの内容
8) モニタリングの方法
9) 各種帳票の記入方法
③ 教育訓練の記録
次の要件を含む教育訓練記録を作成し、保管すること
1) 教育訓練受講者（サイン）
2) 講師
3) 実施日時
4) 教育訓練の内容
(2) 従事者の衛生管理
次の要件を記載した衛生および健康要件に関する管理計画を作成し、実施するとともに、実施状況を記録すること。

図1 HACCP関連資料（図のようなマニュアルだけでなく、責任者や手順を完全に記録する必要のある行程もある。）（―抜粋―）

本当にキーボードを触ったことのない人がほとんどだったので、この初級編をさせても全然できないのです。ですから最初、行かせたときに、みんな毛嫌いするのです。それだと困るということで、本当に最初のほうから、社員に合ったような講習。そして、これだけ人数を集めますからそれでやってくださいということで、講師の方々と話をして能力開発セミナーをやっていただいたことが2、3度あります(平成9年度)。

——ポリテクカレッジと装置を共同研究開発しているとのことで、昨日、編集委員も見学してきたのですが…

アイスの型に落とし込むフィルターという機械があるのですが、以前にそれが必要になったので、県内で何とかつけれないかということで探したのです。そのときは、沖縄のメーカで作っても本土のほうで作ってもコストが同じだということになって、タイムリミットがあったものですから、本土のほうへ発注をかけたのです。けれど、ちょっとした故障で来てもらうだけでも、飛行機代、宿泊代そして修理代など、最低でも15~16万円くらいかかります。これをやると時間的なロスもあるし、金額のロスもある。特に中小企業は何が何でもコストを安くしないといけない。それと、県内の業者も育成しながら、自分たちも逆に勉強しながらできないものかと考えているとき、アイスクリームを容器に注入するパッケージ装置が必要になって、それを相談したらポリテクカレッジさんが共同開発研究を快く引き受けてくださったのです。

——そうすると、今ある機械設備のほうに関しては、県外の…。

ほとんどそうです。アメリカからのものが大部分で、一部、3年前ぐらいに日本製を買ったのですが、それ以前はほとんどアメリカ製です。それで人が入れ替わっているものですから、なかなか慣れるまでに時間がかかります。

緊急的な機械トラブルの修理もあります。1つの企業が機械をつくるということは勉強しないとでき



写真3 ポリテクカレッジでの共同研究

ないわけですから、うちの工務課も開発と一緒に参加して、レベルアップも図る。そうすれば、当然自分たちでつくった機械ですから故障したらわかるし、そういったものも自分たちできちんとメンテナンスできるようになる。工務課の人たちは、ほとんど40代ですから、制御やIC関係が弱い。それを勉強させるためもある。1つの機械を作れば結構レベルアップするのではないか。それと今、パッケージ機械が終わったら、これ1つではなくて次を考えているのです。例えば、うちはきちっとしたレーンコンベアがないので、それをやろうという考え方もあるのです。ですから、一石三鳥ぐらいを狙っているのですけれど、うまくいくかどうか(笑)。

#### 【謝辞】

本取材にあたり多大なるご協力をいただきました、山口代表取締役社長様、田村取締役工場長様、および屋嘉製造課長様に、厚く御礼を申し上げます。

